



令和最初の日本ダービー

優勝 ロジャーバローズ号

(有) 飛野牧場 生産

東京競馬場で5月26日に開催されました、令和最初の第86回日本ダービーで新ひだか町静内の(有)飛野牧場が生産した、ロジャーバローズが優勝しました。町内産馬がダービーを制するのは2007年のウオッカ以来、12年ぶりの快挙となりました。当日のレースでは、18頭中12番人気と前評判は高くありませんでしたが、ゴール前首差で振り切り、コースレコードを更新、見事全国の3歳馬7071頭の頂点となりました。

(有)飛野牧場、代表 飛野正昭さん(75歳)は「G1ダービーを勝つ。ずっとそれを目標にやってきた。牧場を始めてから50年以上経つけど、石の上にも50年だね。生きている間に勝てて良かった。」とここまでやってきた歴史を振り返り、喜びを噛みしめていました。関係者の話では「仔馬が産まれる前、その仔馬が母馬のお腹の中いるときから、競争を勝ち抜けるよう多くの取り組みを行っており、血統はもちろん、育てる環境、長年

の土づくりを基本とした飼養管理、そついった馬に対する愛情と情熱が、今回の優勝へと導いた要因の一つではないか。」と明かします。ロジャーバローズは、10月6日のフランスのパリで開かれる凱旋門賞に同厩舎のキセキと挑戦する予定であり、父ディープリンパクトも成し得なかった優勝に向け期待が高まっています。

今回のことで、新ひだか町も大いに盛り上がりを見せ、これからロジャーバローズに対する期待はさらに増すと思えますが、社長始め、関係者一同「無事これ名馬」として、今後活躍してもらいたいと願っています。勝ちタイム(2分22秒6)

